

階上町民俗資料収集館調査報告

Survey report of the Hashikami-cho town Folklore Museum

根 城 隆 幸

要約 現在、青森県三戸郡階上町に設置されている民俗資料収集館の調査研究をおこなっている。本調査は、八戸学院短期大学後援会特別助成の一環として実施しており、本学に隣接している階上町を研究対象として、学生の研究補助を得ながら実施している。今年度の半ばから調査に着手したので、まだ民俗資料の全貌を把握するまでには至っていないが、本稿はこれまでの調査研究の経過を報告するものである。

1 はじめに

階上町は、青森県の東南端に位置しており、県内で一番早く朝日が昇ると言われる町である。数多くの縄文遺跡が点在し、かつては南部藩の馬産地であったが、明治22年に8ヵ村が合併して階上村になり、昭和55年の町制施行により階上町になっている。当町は平成25年5月に三陸復興国立公園に指定され、9月には三陸ジオパークが日本ジオパークにも指定されている。町のシンボルは標高740メートルの階上岳で、牛が寝そべっているように見えることから別名「臥牛山」と呼ばれている。また、延長5.5kmの海岸線は芝生地帯、岩礁地帯と変化に富んで四季折々に自然豊かな姿を見せている。

階上町民俗資料収集館は、旧階上町中央公民館の移築に伴い、階上町の歴史と文化の学

び舎として、昭和58年に開館、考古・歴史・民俗の資料を常設展示している。内容としては、衣食住に用いられるもの、漁業や狩猟に用いられるもの、交易に用いられるものなど民俗資料を展示しており、昔ながらの品々を観覧することができる。同館は、毎月第2・4火曜日が開館日であり、階上町歴史研究会の方々が町からの委託を受けて運営している。

この調査研究は、地域の民俗資料を伝統と文化の尊重という面から意義深いと考え、郷土を愛する態度を養う意味でも教育資源を歴史的資料として後生へ伝承していこうとするものである。

2 調査開始までの経緯

八戸大学（現：八戸学院大学）は、平成25年3月に包括的な連携のもとにそれぞれが保有する教育資源や情報等を用いて相互に協力し、生涯学習の推進と地域住民の健康増進、スポーツの活性化による社会発展に貢献することを目的として、階上町と連携協力協定を締結した。これは、地域に根ざした高等教育機関を標榜する大学と、まちづくりや健康づくり及びスポーツの振興発展を目指す階上町が、情報交換・共同研究、イベントの啓発活動や参加協力、そして施設並びに指導者の有効活用などを通じて、新たな幅広い協力関係を円滑に進めるための協定である。

学校法人光星学院内の教育機関である八戸学院短期大学も、大学と隣接する階上町との連携協力協定に参画できる内容を模索していくなかで、民族資料収集館の移転事業に協力することになった。同施設も全国的な過疎化・高齢化による地域社会の文化活動の衰退が

進み、地域の貴重な民俗資料の保存および継承が課題となっている。

平成25年7月に階上町教育委員会の担当者に伺ったら、民俗資料収集館は歴史研究会の方々が運営しているとのことである。教育委員会の担当者は1名だけであり、日常の主要な業務の合間に資料収集館を廻って歩いている。階上町でも少子化の傾向にあることから町立小学校の統廃合がおこなわれており、元小学校の校舎を改修して新しい民俗資料の展示施設としてその施設を活用する移転計画があることが分かった。

その後、階上町教育委員会の担当者とともに民俗資料収集館を訪ねて、歴史研究会の

方々に館内を案内していただき、お話を伺いながら現在の状況を拝見させていただいた。同館では、階上町を中心に歴史、民俗、産業等に関する資料を収集し、保管・展示して教育的配慮の下に地域住民の利用に供するように配慮している。多くの民俗資料が大部屋の講堂に展示されているが、開館当初に展示してから殆ど変更がなく、時間の経過とともに展示物が増えていき、床から壁面のかなり高いところまで至る所に展示してある。この施設は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災で建物に被害を受け、講堂の天井が一部はがれ落ちたりしている箇所があり、来館者が拝観しやすいとは言えない状況である。

民俗資料収集館に保存・展示している資料は、数量・種類・形状が様々で、目録作成には多くの人員が携わり、相当な時間を要するであろうことは明白であった。また、他の施設にも民俗資料を保管しているということなので、これからも展示していく民俗資料と保存していく民俗資料、陳腐化や破損等により廃棄する民族資料等に分類していかなければならない。そこで、階上町教育委員会及び歴史研究会の意向を確かめながら移転事業に協力し、民俗資料の調査研究をおこなうこととなった。民俗資料の調査には多大な時間と人員を要することが見込まれるので、学生にも研究補助の協力を要請し、民俗資料収集館の移転事業に協力することと併せて、今年度と翌年度の2カ年に渡って調査研究し、民俗資料目録を作成することとなった。

3 調査方法

民俗資料収集館には多数の資料が保存されているが、この施設のほかにも資料を保存している施設がある。すべての民俗資料を今年度で把握することは難しいので、とりあえず民俗資料収集館にある所蔵資料を把握することにした。民俗資料を整理整頓しながら分類して、新しい施設に保存・展示する民俗資料を選定していかなければならないが、民俗資料収集館に収蔵されている民俗資料が大きな比重を占めるので、その所蔵目録を作成するところから調査を開始することとした。なお、翌年度には、民俗資料目録を作成して移転するために専任の臨時職員を雇用する計画がある。

階上町民俗資料収集館には、昭和58年の開館時に作成したB5判の資料基本カードがあり、手書きのものがクリア・ブックに保管してあったが、電子化は全くなされていなかった。この資料基本カードに記載してある項目は次のとおりである。

- ① 分類番号
- ② 資料名
- ③ 受入先（寄贈者氏名）
- ④ 受入先（電話番号）
- ⑤ 受入先（住所）
- ⑥ 受入期日（年月日）

この資料基本カードと現在の所蔵品が一致しているかどうかは不明で、民俗資料が陳腐化したり、破損して遺棄してしまった物品や目録には記載されていないが、新たに寄贈された民俗資料も展示してある。開館時点に所蔵されていた目録であり、現在、所蔵している民俗資料のすべてを反映しているものでな

い。

調査開始前には、民俗資料の個々に通し番号を付していくことを考えていたが、実際に調査を開始してみると、あまりに多種多様な民俗資料が展示してあり、数が膨大であることと目録を作成した時点での分類が展示場所と一致していないことが判明した。そこで、調査方法を変更して、まずは現存しているB5判の資料基本カードに記載してある内容を、表計算ソフトウェアを活用してパソコンにデータ入力し、電子データを作成することから着手した。資料基本カードの内容をその場で入力していくのは限られた時間では難しいので、資料基本カードの内容を写真撮影し、後日、大学に戻ってからパソコンにデータ入力することにした。相当な枚数のカードを写真撮影したが、限られた時間のなかで現地調査を終えることができた。

大学に戻ってからは、研究補助の学生に協力してもらい、写真撮影した記録内容を表計算ソフトウェアを活用してデータ入力し、アナログデータをデジタルデータに移行することができた。しかし、デジタルデータの一覧表により、資料基本カードに記載されている分類番号が重複していたり、受入先の寄贈者氏名は同じだが受入先の住所が違っていると、受入先の寄贈者氏名が違うのに受入先の住所が同じだったり、データの誤記入が数多くあることが判明した。また、資料基本カードの記載内容は手書きのために判読できない文字も見られたので、現時点で判明している完成途中のデジタルデータとなっている。

民俗資料をどのように分類するか、資料目録をどこまでの項目に分類して作成するかなどは、デジタルデータで作成した民俗資料の一覧表を、実物と照らし合わせて改めて検討することとし、作成した一覧表には通し番号だけを新たに付け加えることとした。

年末には、階上町教育委員会を訪れて担当者へ、新たに作成したデジタルデータと写

真撮影したデータの印刷物を届けることができた。今年度は、現地調査をおこなうことにより資料基本カードに記載された資料を手掛かりに、デジタルデータを作成することはできたが、完成させるまでにはいたらなかった。しかし、翌年度に向けて、階上町民俗資料収集館の移転事業の整理整頓をおこなう、一つの指標になったものと考えている。

4 今後の展望と調査の意義

階上町民俗資料収集館の資料目録が完成したら、所蔵資料の全体像が見えてくることになる。そして、次の段階はこの資料目録に基づき、展示してある民俗資料の現物と照らし合わせて、修正・増補しながら、より正確で詳細な情報を作成していくことになる。記録する項目は、民俗資料の大分類、小分類、編分類の階層により入力し、民俗資料の内容についてもできるだけ記録していくことになる。こうした情報に基づき詳細な資料目録を作成し、有用な情報をデジタルデータ化することによって、民俗資料の検索を容易なものにしていくことになる。情報検索を支援する基本的な資料情報に加え、関連付けられるその他のキーワードを情報として入力することが求められるが、これらの情報はできるだけ画像データと併せて記録し、デジタルコンテンツとして各情報を関連付けたデータベース化していくことが望ましい。このことにより、将来の民俗資料の修正作業も格段に効率化できるはずである。しかし、これらの資料目録をデータベースとして構築するには、膨大な時間・人員・資金・情報の確保が必要と

なるので、今後の課題である。

また、冊子体の民俗資料目録を作成して、階上町の小中学校はもちろんのこと、近隣の教育関係機関に配布したい。民俗資料には、有形、無形のものがあるが、ここで取り上げているのは、いわゆる有形民俗資料であり、民具が中心である。どんな民具を採集していくのか、また、採集した民具をどのように整理し、その民具の個々についてどのように分類して地域住民へ教育資源として提供していくのかということも課題である。これらについては、階上町教育委員会の意向を伺いながら作成していくことになる。

現在、全国各地でおこなわれている民俗資料の調査は、文化の伝承のみならず、多くの分野の研究に成果をもたらすことになる。民俗資料の調査は、文化の伝承の一翼を担うことになり、研究資源の整備や文化財保存という面からも意義深い。それに加えて、階上町民俗資料収集館の特色は、歴史研究会の方々がボランティアで文化の伝承を支えていることであり、こうした側面にも注意を払いながら調査研究を進めていくことで、貴重な民俗

資料を将来の世代へ伝えていくことができるものと成果を期待している。

5 おわりに

この調査研究をおこなっている期間に、地元教育機関で古文書が所在不明になっていることが報道された。資料は篤志家からの貴重な寄贈品であり、文化の伝承として保存したり、定期的に点検する方法や展示・閲覧の仕方についてはどこでも難しい課題を抱えている。

歴史的資料のすべてを後生に残していくことは難しいが、やはり独立した施設設備を設置して、適切な人員を配置し、予算を確保して、民俗資料等を保存していかなければならない。寄贈された歴史的資料を後生に残していくことは貴重な行為であり、地域住民の利用に広く供することが望ましい。新しく施設設備を設置することは難しいかもしれないが、階上町のように統廃合された元小学校の校舎を改修して再活用する方法もあり、地域にある物的資源を活かしていくことは限りある財的資源の有効活用であり有意義である。

適切な保存や展示をするためには人的資源の活用も欠かせない。現在は歴史研究会の方々に依頼しているが、会員の方々はかなり高齢にもなっていることから、民俗資料

を移転した後の課題として、この点もこれから検討していかなければならない。研修活動をおこなって、人的資源の資質向上を図っていくことも考えられる。

また、新しい施設に移転してから課題としては、広報活動の推進があげられる。折角、地域の貴重な民俗資料が保存されていることから、これを有効に活かしていきたい。広報活動を活発におこなうには、階上町の広報誌『広報はしかみ』やホームページに掲載することはもちろんのこと、報道機関にも協力をいただきたい。

歴史、民俗、産業等に関する様々な資料を収集、保存、展示することによって、地域住民の生涯学習活動や調査研究等に資することができる。科学技術の進歩により、新しい機器が開発されて生活が便利になってきているが、これらの民俗資料はいつ、どんな場面で大きな歴史的意義を発揮することになるか知れない。今ある民俗資料を永く大切に保存していくことはとても有意義なことである。これからも調査研究を継続していき、地域の教育資源を有効に活用して生涯学習の推進と地域住民の社会発展に貢献していきたい。

参考文献・資料

藤巻和宏（2013）「菅原山天満寺宝珠院調査報告」

大久保等（2012）「新郷村産品（特産品）購入者アンケート調査結果報告」産業文化研究 21

階上町 HP <http://www.town.hashikami.aomori.jp>

東奥日報 (2014.1.3) 「県内一早い初日 安らかな年願う」

階上町民俗資料収集館・資料基本カード一覧表

分類番号	資料番号	資料名	受入先 (氏名)	受入先 (電話)	受入先 (住所)	受入 (年)
A-い-001	1001	糸より台	浜×××	-	青森県三戸郡階上町大字道仏	-
A-い-002	1002	糸車 (羊毛用)	野×××	-	青森県三戸郡階上町大字赤保内	S58.7.10
A-い-003	1003	糸車 (末巻用)	野×××	-	青森県三戸郡階上町大字赤保内	S59.7.10
A-い-004	1004	糸車	前×××	-	青森県三戸郡階上町大字道仏	S58.3.26
A-い-007	1005	えんつこ	久×××	-	青森県三戸郡階上町大字角柄折	S58.3.19
A-い-009	1006	男物下駄 (足駄)	沼×××	-	青森県三戸郡階上町大字道仏	S58.3.?
A-い-010	1007	籠 No1	野×××	-	青森県三戸郡階上町大字赤保内	S58.7.10
A-い-011	1008	かご	濱×××	-	青森県三戸郡階上町大字道仏	S58.2.12
A-い-015	1009	外套 (陸軍軍人用)	濱×××	-	青森県三戸郡階上町大字道仏	S58.7.28
A-い-016	1010	軍帽 (陸軍)	中×××	-	青森県階上町大字晴山沢	S58.6.23
A-い-017	1011	軍服上衣要物	西×××	-	青森県八戸市大字市川町	S58.10.?
A-い-018	1012	軍服	-×××	-	-	-
A-い-019	1013	軍服一着 (秋冬春)	西×××	-	青森県八戸市大字市川町	S58.10.?
A-い-020	1014	ゲートル (巻脚絆) No.1	佐×××	-	青森県三戸郡階上町大字金山沢	S58.1.29
A-い-021	1015	ゲートル (巻脚絆)	田×××	-	青森県三戸郡階上町大字赤保内	-
A-い-022	1016	ケートル (巻脚絆)	上×××	-	青森県三戸郡階上町大字道仏	S58.2.28
A-い-023	1017	ゲートル (巻脚絆)	佐×××	-	青森県三戸郡階上町大字道仏	-
A-い-025	1018	ゲートル	佐×××	-	青森県三戸郡階上町大字道仏	S58.2.22
A-い-027	1019	三幅前掛け	伊×××	-	青森県三戸郡階上町大字鳥屋部	S58.7.28
A-い-028	1020	しぶり	浜×××	-	青森県三戸郡階上町大字道仏	-
A-い-029	1021	スンベぐつ	河×××	-	青森県三戸郡階上町大字金山	S58.1.29
A-い-030	1022	スンベ	久×××	-	青森県三戸郡階上町大字角柄折	S58.3.19
A-い-031	1023	スンベ	内×××	-	青森県三戸郡階上町大字鳥屋部	S58.3.19
A-い-032	1024	スンベ	下×××	-	青森県三戸郡階上町大字道仏	S58.2.28
A-い-034	1025	すんべ	西×××	-	青森県八戸市大字市川町	S58.10.?
A-い-036	1026	袖無 (ちゃんちゃこ)	西×××	-	青森県八戸市大字市川町	S58.10.?
A-い-037	1027	つづれ	沼×××	-	青森県三戸郡階上町大字道仏	S58.3.7
A-い-039	1028	ハンチャ	-×××	-	-	-
A-い-040	1029	ふたで	沼×××	-	青森県三戸郡階上町大字道仏	S58.3.7
A-い-041	1030	ポーシ (中折れ)	濱×××	-	青森県三戸郡階上町大字道仏	S58.2.12
A-い-042	1031	ポーシ	西×××	-	青森県八戸市大字市川町	S58.10.?
A-い-044	1032	みの No1	地×××	-	青森県三戸郡階上町大字鳥屋部	S58.3.30
A-い-045	1033	みの No2	地×××	-	青森県三戸郡階上町大字鳥屋部	S58.3.30

